

# 未来のカタチ

ミライノカタチ

令和3年8・9月号

京都市立七条中学校

## 道徳通信

\* \* \* 学校教育目標 \* \* \*

『自主・自律・共創』

~社会や人とのつながりの中で、自らを律し主体的に学び、共に未来を創造する生徒の育成~

いまだコロナ禍ではありますが、9月いっぱいに緊急事態宣言が解除されます。解除されてもマスクの着用や多くの行動制限があり、自由に動くのは難しいかもしれません、いましばらくの我慢です。共に頑張って乗り越えましょう。

さて、あんなに暑かった日々ですが、ようやく少しずつ気温も下がり、秋の訪れを感じられる季節となりました。空の色が、濃い青から少し淡い水色に変化してきました。夕方に見える雲も秋らしくなっています。秋と聞いて、みなさんは何を思い浮かべますか。勉強の秋、読書の秋、スポーツの秋、芸術の秋。いろいろな秋を連想すると思いますが、みなさんにとて「実りある秋」そして「充実した秋」になることを願っています。

1年生

## \*-\*-\*-\*-\* 授業の様子を紹介します \*-\*-\*-\*

## “古都の雅、菓子の心”

現在、京菓子司として活躍している富藏さんですが、父の後を継いだころは、父と比較されるばかりで、よい評価がもらえず、悩む日々が続いていました。そんなとき、以前に家元夫人に言われた「一期一会」という言葉を思い出し、菓子司の仕事について改めて見直すことになります。何が富藏さんの仕事への姿勢を変えたのでしょうか。菓子作りに込められた「受け継いだ心」について、富藏さんの考え方や生き方から考えました。

古くから受け継がれている伝統や文化には、どのようなものがあるのでしょうか。また、古くから人々が大切にしてきた「もてなし」の中に、どのような気持ちが込められているのでしょうか。日本の伝統や文化のよさを受け継ぎ、大切にしていきたいですね。



季節を感じる心。  
日常の所作に美しさを見いだす心。  
日本人独特の美意識を忘れないでほしいと思います。  
—— 山口 富藏氏

## 《ワークシートより（授業の感想）》

- ・「礼儀」や「心」が日本の伝統文化にはよく表れているなと思った。そして、"きれい"だとも思った。菓子に限らず、一人一人に向き合い誠意を尽くすというのは、日常生活の中でも大切なのかもしれない。私もその心を忘れないようにしたい。
- ・日本は昔から礼儀を大切にしているので、このような伝統文化を守らないといけないと思う。そして、どんどん未来へ伝えていかないといけないと思った。
- ・私は今回の授業で、最初の富藏さんの気持ちがとても分かった。少しでも楽をしたい、早く終わらせたいという気持ちちは私もあるから。けれど、富藏さんが「一期一会」という言葉に出会ったことで、お客様一人一人と誠実に向き合い、努力するようになったことに私は感動した。私も誰かのために努力できるような人になりたい。
- ・菓子司は、おもてなしの心を大切にしていたけど、菓子以外のこともおもてなしの心が大切だと思った。自分が思う「おもてなしの心」は、思いやりの心を持つことだと思う。



## “祭りの夜”

秋田の竿灯祭りに出かけた女子中学生が、関西からの観光客に秋田について質問され、郷土の良さを一生懸命に説明します。教材の筆者である中学生はこのやり取りを通して、改めて地域の良さに気づき、さらに郷土への思いを深めていこうとします。

みんなの暮らす京都にも多くの観光客が来ますが、京都の良さを上手に説明できるでしょうか。京都と言えば、祇園祭、西陣織、清水寺、舞妓さん、八つ橋、京野菜。色々



なキーワードは思いついても、それぞれの魅力、歴史、それがなぜ京都らしいのか…そこまで説明するのは難しいかもしれません。せっかく京都で暮らしているのですから、京都について勉強して、その魅力を多くに人々に発信していけたらいいですね。

ワークシートに「意外と京都の良さを知らない」と書いた人が多かったのが印象的でした。



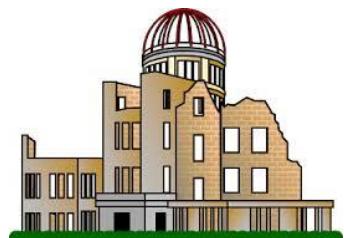
### 《ワークシートより（授業の感想）》

- ・京都について考えてみて、詳しくは知らないことが多いことに気づいた。もっと深く知ったら意外と面白い話がありそうだと思った。
- ・教材の筆者のように、地元を自慢できるようになりたい。京都に住んでいて良かったと思えるようにしたい。
- ・京都のことをPRできるように京都についてもっと知りたい。特に京都に関わる有名人を調べてみても面白そう。
- ・町家をアレンジしたカフェや景観を損なわない色のコンビニなどの工夫が京都らしくていい。
- ・資料に出てきた抹茶パフェを食べてみたい。（京都っぽいから）



## “命見つめて”

修学旅行の行き先が広島ということもあり、総合、国語科、英語科など、様々な学習の機会を通して、平和についての学習を進めています。今回は、「命みつめて」という題材を用いて、道徳の授業で戦争や平和について深く考えました。日本に対して恨みを抱き続けた外国人が驚いたこと。なぜヒロシマの人々はずっと前にアメリカを許しているのか。広島の悲惨な被ばくの状況にもかかわらず…。「許しとは」「世界のひとひとの心に平和のとりでを築くためには」という問いについて考えました。



### 《ワークシートより（授業の感想）》

- ・日本も他の国も、互いの国の被害を知り、皆が平和を願うことが大切だと思った。戦争や差別が世界からなくなったらよいのに、と思う。
- ・日本人はアメリカ人を憎んではいないけど、原爆が落ちた時の様子や被害の大きさなどをもっと知ってほしいと思う。
- ・事実を知ることが大切だと思う。勝手な思い込みや偏見をなくすことで、少しは戦争を減らして平和を守れるはず。過去の戦争で、実際に起きたことを、その国々の感情をいれずに学ぶことが大切だと思う。
- ・戦争は人の心も体もダメにして、やられた側の人たちの中には、まだ戦争が続いている。戦争は絶対に起こしてはいけないと思った。